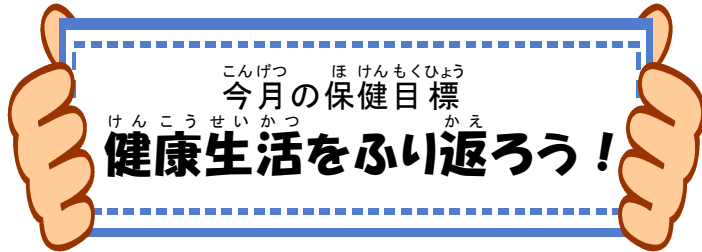




No. 31
H29.3.2.
青郷小学校

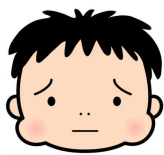


青郷小、感染症のようす

全国的に流行していた**インフルエンザ**ですが、青郷小学校では2月8日の21人目を最後に、その後は出ていません。(全員A型でした)



一方、11月初めに流行が始まった**流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)**は、今週もまた新しくかかった人があり、4ヶ月たってもまだ続いています。今までにかかった人は42人になりました。それまでに流行性耳下腺炎にかかったことがあった人は全校で20人くらいなので、今回がいかに大きな流行なのかが分かりますね。



また、2月下旬から**溶連菌感染症**が数人出ています。溶連菌感染症は、熱やのどのはれ、痛みが主な症状で、病院にかかってお薬を飲めば人にうつる心配はなくなり、登校することができます。ただ、熱やのどとはちがう症状が出たり、重大な病気を引き起こしたりする可能性もあるので、注意が必要です。



となりのおおい町では、今週、インフルエンザA型で学年閉鎖をしている学校があります。反対どなりの舞鶴市では、インフルエンザB型が流行し始めています。A型にかかった人もまたB型にかかる可能性は十分にあります。卒業式も近づいてきて、1年のまとめの大事な時期です。しっかり予防していきましょう。

身体計測の予定

6日(月) 4の1 6年 1年

7日(火) 4の2 3年

8日(水) 5年 2年 ひまわり

4月からの成長(年間発育量)を調べます



3月3日は耳の日～耳よいな話～

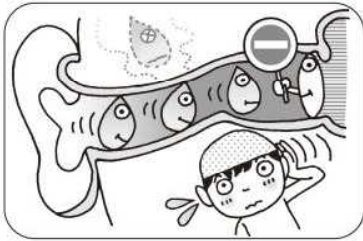
耳のはたらき

耳は音を聞くところですね。

ただ、それだけではありません。耳のおくには、前庭と三半規管というからだのバランスを感じる場所があります。前庭はからだの傾いているかを感じ、三半規管はからだの回転しているかを感じます。この2つがあるから、人間はからだのバランスをとることができるのです。

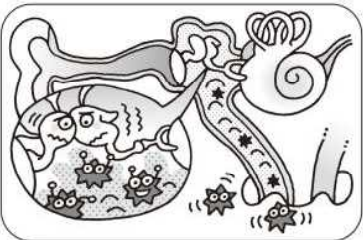


耳に水が入ったら…



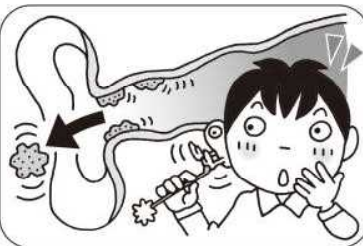
耳に入った水は、半日くらいで自然に蒸発します。放っておいても中耳炎になることはありません。水がたまるのはこまのうしろなので、中耳まで水が入りこむことはないのです。どうしても気持ち悪いときは、片足ケンケンのほかに、「あお向けにねころんで1、2分『あーうー』と口を大きく動かし、その後、水が入った方の耳をゆっくり下にする」という方法もお勧めです。

中耳炎はなぜ起こる?



こまのうしろ（中耳）と鼻のおくは管でつながっています。この管を耳管と言います。かぜをひくと鼻水のばいきんがこの耳管を通して中耳に入り、炎症を起こします。これが中耳炎です。かぜをひいてしまったら鼻水をすすったりためたりしないでこまめにかむこと。かむときは片方ずつ、ゆっくりとかみましょ。ただし、中耳炎にはほかの原因で起こる種類もあります。

耳そうじって気持ちいいけど…



耳そうじを気持ちいいと感じるのは、耳の穴には気持ちいいと感じさせる『迷走神経』があって、触れれば触れるほど気持ちよくなるのです。でも、気持ちがいいからと言って毎日耳そうじをしていると、耳の穴のかべを傷つけてしまい、ばいきんが入って外耳炎という病気になることもあります。耳の穴のかべは骨の上のうすい皮ふ

がかぶさっているだけなので、とても傷つきやすいのです。耳そうじは、月に1、2回、綿棒で耳の穴の入口付近をそっとぬぐうだけで十分です。なぜなら、耳の穴には耳あかを外に向かって自然におし出す力があるからです。